



## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 「新年度にあたり」

院長 福治 康秀

新年度が始まりました。当院も、新しいメンバーを迎え、新しい体制で医療やサービスの提供を行います。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、正月に能登半島地震がありました。その後、羽田空港において飛行機同士の衝突事故も発生しました。そして、年度初めの4月には、沖縄県に津波警報が発令され、患者さんの避難などの対応も行いました。また、沖縄県北部では、豪雨災害も起きました。災害で始まり、沖縄にも災害が発生した年でした。今年も、何事もなく平穏な始まりとなり良かったです。災害はできることなら起きてほしくありません。しかし、万が一の際に備え、日頃からの準備が重要となります。災害拠点精神科病院として、当院も備えをしっかりと行います。定期的な訓練、備蓄物資やライフライン遮断時の設備等、備えを進めます。

精神医療に関しては、さらに地域移行が進みます。患者さんたちにとって、非常に大切なことです。各関連機関との連携が、さらに重要となります。関連機関の皆さん、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

当院では、地域包括ケア病棟を立ち上げ運用します。また、さらにアウトリーチの展開を進めていきます。患者さんたちが、地域で生き生きと生活することが、当院スタッフ全員の夢です。その夢の実現のために、スタッフ一同全力で頑張ります。

rTMS(反復経頭蓋磁気刺激)治療の導入を行いました。治療を開始しており、数例の患者さんの治療を進めておりますが、皆さん著効しております。この治療は、既存の抗うつ薬による薬物療法によっても、期待される治療効果が認められない中等症以上の成人(18歳以上)のうつ病(うつ病エピソード、および反復性うつ病性障害)が対象疾患となります。沖縄でも、rTMS治療で改善する方が増えるよう、引き続き取り組んでまいります。

以上、代表的な取り組みを紹介しましたが、今年度も各種専門医療と精神科救急医療の発展に全力を尽くす決意です。訪問看護・ACT・地域精神医療、治療抵抗性統合失調症(クロザピン・m-ECT)、治療抵抗性うつ病(rTMS)アルコール・薬物依存症医療、児童・思春期精神医療、認知症医療、司法精神医療(医療観察法入院・通院、鑑定)、重症心身障害児(者)医療(強度行動障害)、精神科救急医療、そしてDPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team 災害派遣精神医療チーム)を担います。

教育・研修にもさらに取り組みます。医師の研修については、各初期研修施設からの研修医の受け入れ、医学生への研修の受け入れ、専門研修医の受け入れをさらに拡大します。そして、引き続き看護、コメディカルの研修を継続します。また、当院スタッフの成長・スキルアップのための取り組みも進めます。皆で成長できる病院であり続けます。そのためにも、各関連機関との連携がますます重要となります。今年度も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

#### 院長



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。  
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本森田療法学会理事。  
日本病院・地域精神医学会理事。  
琉球大学医学部 臨床教授。

#### 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

#### 病床数

353床

- ・精神 (一般精神・クロザピン専門・精神科救急) 151床
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



#### 路線バス

那覇BS(下り)または名護BS(上り)より  
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停  
下車徒歩3分

#### 自動車

那覇市から40分沖縄自動車道道金武  
インターから名護向け5分

#### お問い合わせ

時間 **8:30 ~ 17:15**  
(土・日・祝日・年末年始以外)  
TEL **098-968-2133(代)**  
内線 **231・234**

#### 地域医療連携室(直通)

TEL **098-968-3550**  
FAX **098-968-7370**

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



### クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ434例になりました。2025年2月のCLZ登録症例は2例でした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ(<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では、ADHDに特化したペアレントトレーニングプログラム「ウェル・ペアレント・ジャパン（Well Parent Japan：WPJ）」を実施しています。WPJは、OISTの島袋静香博士が長年研究を重ね、保護者への効果が実証されたプログラムで、これまでに文部科学大臣表彰を受賞し、論文が国際的な科学雑誌『Journal of Child and Psychiatry』に掲載されるなど、国内外で高く評価されています。

このプログラムは、主に、小学生の年齢でADHDの診断を受けたお子さんの保護者を対象としています。これまでのグループでは、保護者同士が体験や気持ちを共有し、関わり方のアイデアを出し合いながら、お子さんへの理解を深め、関わり方が変わっていく様子が見られました。毎回新しい発見をいただいています。

今後も定期的にグループを開催できるよう準備を進め、より多くの方にADHDのお子さんへの理解を深めていただければと考えています。

## 医療安全管理部門

医療安全係長 宮城 尚子

医療安全管理室の活動内容は、組織横断的な役割を担っており、患者さんが安全な医療を受けられる組織作りを目的としています。各部署に配置されている医療安全推進委員の皆さんが、医療安全管理部門と現場の職員をつなぐ役割を担っています。各職場での医療安全管理に関する意識向上、インシデント報告の分析と対策の検討、事故防止および安全対策の周知徹底などを担っています。医療安全管理部会では、インシデント報告書の0レベル提出を促進し、強化月間を設けるほか、様々な研修を企画し、職員の安全意識を高めることで重大な事故の防止につながる取り組みを行っています。

また、医療安全に関する患者相談窓口としての役割も担っており、患者さんや職員からの声を医療に活かすことを重視しています。何かお気づきのことがありましたら、患者相談窓口を通じて、ぜひ、お声をお寄せください。皆様の声を大切にしながら、ともにより良い医療を築いていきたいと考えています。

## 重症心身障がい部門

療育指導室長 金城 安樹

令和7年3月、重症心身障害病棟では特別支援学校中学部、高等部を卒業される方がいます。就学猶予や免除により学校教育を受けられなかった方には、訪問教育が提供されており、楽しまれている様子が見られました。また、今年度の院外活動や行事を振り返ると、夏祭りや秋祭り、クリスマス会、誕生会へのご家族の参加、ボランティアの催しや行事運営のご協力があり、利用者の皆さんに楽しんで頂きました。次年度はエプソンさんの「ゆめ水族園」や院外活動の拡大を行います。今後も西Ⅰ・Ⅱ病棟の利用者の皆様がその方らしく過ごせるよう、多くの皆さまのご支援を宜しくお願い致します。

## ● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 松田 司

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症を含むアディクション全般、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、うつ病への治療として反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患に対応できる診療体制を整えています。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様により良い医療を提供し、適切な対応ができるよう心がけております。

初診を含め、受診は予約制となっております。ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。